

## 第4章

### 自主防災組織の機能を高めるための活動

- 4-1 自主防災計画
  - 自主防災計画づくりについて学ぼう
- 4-2 自主防災活動用アクションカードの作成
  - アクションカードについて学ぼう
- 4-3 災害時要援護者（避難行動要支援者）の避難支援
- 4-4 DIG
  - DIGについて学ぼう
  - DIGの基本的な取りくみ方
  - DIGのバリエーション
- 4-5 クロスロードゲーム
  - クロスロードゲームについて学ぼう
  - クロスロードゲームの基本的な取りくみ方
  - クロスロードゲームの応用
- 4-6 その他の防災ゲームの紹介
  - HUGについて学ぼう
  - HUGの基本的な取りくみ方
  - 仙台発そなえゲームについて学ぼう
  - その他の防災ゲームの紹介

#### この章で学ぶこと

- 自主防災計画の作成方法を理解します。
- アクションカードの作成方法と活用方法を理解します。
- 災害時要援護者の避難支援の方法について理解します。
- DIG、クロスロードゲーム、HUGなどの防災ゲームの取り組み方を理解します。



## 第4章 自主防災組織の機能をもつめるための活動

### 4-1 自主防災計画

#### 自主防災計画づくりについて学ぼう

##### (1) 自主防災計画とは

各地域でそれぞれの地域特性に合わせた防災活動を行うためには、自主防災組織が編成されていて日頃から組織的な活動ができるようになっていたり、災害時に地域ではどのような対応をするかが明らかになっていることが必要です。

自主防災計画とは、そのような地域特性に合わせた防災活動の土台となるものです。

自主防災組織の結成、規約を作成（運営のルールづくり）



#### 自主防災計画の作成

日常や災害時における行動の  
取り決め

見直し

反映

#### 活動目標・年間活動計画

年間活動目標の設定  
継続的な活動による目標達成

- 活動目標を定期的に見直しながら、活動計画を実施する。
- 実際の活動状況をもとに、自主防災計画を見直し、活動目標や活動計画へ反映する。

##### (2) 規約の確認

自主防災組織が結成され継続的な活動を行っていくためには、自主防災組織の根拠となる規約が必要となります。自主防災組織の目的や体制の他、組織として活動するために必要なルール等が定められているかを今一度確認しておきましょう。

#### 規約作成の留意点

1. 自主防災組織を設置する根拠は、組織に参加する住民相互の合意にあり、明確化した規約を定めておく必要があります。
2. 自主防災組織を設けるにあたり、自治会、町内会の一つの部門として設ける場合は、規約を改正すれば足りませんが、新たに自主防災組織を設ける場合は、規約により必要事項を明確にする必要があります。
3. 規約は、組織の目的、事業内容等を明らかにするとともに、役員を選任及び任務、会議の開催、自主防災計画の策定等について定めるものです。

### (3) 自主防災計画の作成

自主防災組織として、いつ、どのような活動を行うかを決めておき、その計画に沿って防災活動を実施します。

※ 活動内容の中には、防災訓練だけでなく、災害時に何をするかを地域で話し合っ  
て決めておくことや、その他地域の防災に関わる幅広い活動も含まれますので、  
地域の特性・状況に合わせて必要だと思われる活動を積極的に取り入れていきま  
しょう。

#### 【 年間計画の例 】

XX 自主防災組織 ○○年度年間計画

○○年○月	自主防災組織打合せ
○○年○月	普及活動のためのパンフレット等の配布およびポスター等の掲示
○○年○月	家具の固定等のアンケートの実施等
○○年○月	防災資機材の点検
○○年○月	防災訓練打合せ
○○年○月	防災訓練
○○年○月	家庭内対策の講習会

※ 自主防災計画については、参考例 (資料編の [資](#) - 15 ページ) を参照願います。



Memo

#### (4) 防災マニュアルの作成

防災マニュアルは、災害時にどのような対応をするかをあらかじめ決めておき、それをマニュアルとして整備し、わかりやすくまとめておくことで、災害時に必要なことがスムーズに行われるようにしておくものです。

防災マニュアルには下記のような事項について、地域で決めたことを記入しておきましょう。

分野	盛り込むべき項目	主な内容
災害時の活動に関すること	情報の収集・伝達	安否確認・情報収集・伝達方法について定める。 (情報収集・伝達班) ※別紙アクションカード参考
	初期消火	初期消火方法について定める。 (初期消火班) ※別紙アクションカード参考
	救出・救護	救出・救護活動、医療機関への連絡等を定める。 (救出・救護班) ※別紙アクションカード参考
	避難誘導	避難誘導の指示、方法及び避難路、避難場所、避難所の管理・運営等を定める。 (避難誘導班) ※別紙アクションカード参考
	給食・給水	食料や飲料水の確保、配給、炊き出しに等について定める。 (給食・給水班) ※別紙アクションカード参考

※ 防災マニュアルについては、参考例(資料編の [資](#) - 26 ページ)を参照願います。

#### アクションカードとは

災害時の具体的な活動内容をカードにしておくことで、災害発生時等に各班長が各班に任務を付与することができ、迅速かつ的確に、効果的な自主防災活動を実施することができます。

(第4章 [4](#) - 4 ページ 「自主防災活動用アクションカードの作成」を参照)



## 4-2 自主防災活動用アクションカードの作成

### アクションカードについて学ぼう

#### (1) アクションカードについて

アクションカードとは、災害時の具体的な活動内容をあらかじめ担当業務毎にカードにまとめておくことで、災害時等に各班が迅速かつ的確に、自主防災活動を実施することができます。

#### (2) アクションカードを使う人

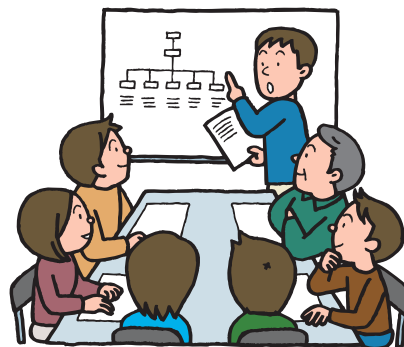
災害時に自主防災組織が行う活動は多岐に渡るため、あらかじめ役割分担をしておくことで、スムーズな対応が行えます。

下記の役割ごとに、アクションカードを作成しておきます。これは一般的な班分けであり、実際は、各自主防災組織の班編成に応じて作成し活用してください。

- 地域防災リーダー
- 情報収集・伝達班長
- 初期消火班長
- 救出・救護班長
- 避難誘導班長
- 給食・給水班長

#### (3) アクションカードの保管場所

災害時にすぐに取り出せるように、地域の集会所や自主防災組織の資機材倉庫など、皆が集まり活動拠点となる場所にアクションカードを置いておき、発災時、各班長等に渡して活用します。



## 地域防災リーダー用 アクションカード (作成例)

### 集合場所

- ○ 集会所
- ○ 公園

### 任 務

隊長補佐 / 各班の指揮・連絡調整及び消防団・行政機関との連絡調整

### 内 容

1. ○ ○ 集会所 (○ ○ 公園) に △ △ 町内会災害対策本部を設置してください。
 

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生時刻 ( )</li> <li>・ 災害の種類 ( )</li> <li>・ 負傷者等数 ( )</li> <li>・ 避難者の数 ( )</li> <li>・ 被災建物数 ( )</li> <li>・ 被害状況等</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------
  
2. ○ ○ 公園に集合してきた町内会の班長及び避難者から被害情報等を収集してください。  
 町内会の班長は班内を巡回し、一人暮らし高齢者などの災害時要援護者宅、救助に人手が必要な家などの確認を実施後、○ ○ 公園に集合。原則として震災時(震度○以上)には、○ ○ 公園(いつとき避難場所)に自動的に参集することとし、安否が確認できない人がいる場合は、捜索・救助に向かう。
 

	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------
  
3. 隊長と協力し、防災活動を実施します。自主防災組織の各編成班の班長を集めてください。  
 情報収集・伝達班長、初期消火班長、救出・救護班長、避難誘導班長、給食・給水班長
 

	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------
  
4. 申し合わせに従い集合した自主防災組織の各班長に、アクションカードを渡してください。  
 申し合わせ事項 (例)：震度6弱以上の地震災害  
                          (例)：地震により津波の発生が予想される場合  
                          (例)：その他ライフラインの損害を伴い多数傷病者の予想される災害
 

	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------
  
5. 情報収集の結果から、自主防災組織の各班の配置場所を指示してください。
 

<span style="color: purple;">●</span> 情報収集・伝達班 (紫)	被害状況等の情報を収集・伝達する。	配置(活動)場所 ○ ○ 方面
<span style="color: red;">●</span> 初期消火班 (赤)	初期消火を実施する。	配置(活動)場所 ○ ○ 方面
<span style="color: orange;">●</span> 救出・救護班 (黄)	不明者の捜索・救助を実施する。	配置(活動)場所 ○ ○ 方面
<span style="color: green;">●</span> 避難誘導班 (緑)	傷病者の応急手当を実施する。	配置(活動)場所 ○ ○ 方面
<span style="color: blue;">●</span> 給食・給水班 (青)	○ ○ 公園へ避難誘導を実施する。	配置(活動)場所 ○ ○ 方面

	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------
  
6. 定期的に情報収集を行い、○ ○ 本部等へ連絡を入れてください。
 

	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------
  
7. 状況に応じて、各班の活動を指揮してください。  
 (例)：救助活動については、消防団と協力して実施する。  
 (例)：初期消火班を救出・救護班の応援として○ ○ へ配置する。  
 (例)：避難誘導班を救助班として○ ○ へ配置する。
 

	<input type="checkbox"/> ☑してください
--	-------------------------------------

## 情報収集・伝達班長用 アクションカード (作成例)

### 集合場所

- 集会所
- 公園

### 任 務

情報収集・伝達班を指揮し、被害状況等を把握するために情報収集・伝達活動を実施する。

### 内 容

#### 1. 事前に決めていた調査担当区域へ情報収集・伝達班を配置し、地域内の安否情報や災害情報を収集してください。

- ・あらかじめ地域内で情報を集めて連絡する場所、手段をはっきりさせておく必要があります。
- ・安否情報の収集は、旗やシールを玄関等に表示することで効率的に行うことができます。
- ・安否情報や災害情報調査表を予め決めておくとスムーズに収集できます。



☑してください

#### 2. 市や防災関係機関、報道機関等の提供する情報をラジオ等から収集してください。

- ・テレビやラジオによる正確な情報を入手することが大切であり、停電時も考慮して電池式ラジオを携帯します。
- ・情報を入手した場合は、必ず情報源を確かめ、伝える際にはどこからの情報が伝えます。



☑してください

#### 3. 収集した情報の中から必要と認める情報を隊長や地域防災リーダーに報告し、また、隊長や地域防災リーダーを通じ、地域内住民、防災関係機関等に伝達してください。

- ・すばやく正確な情報などを伝達するため、事前に伝達区域や担当者を決めて、メガホンや町内掲示板などを利用して地域内に伝達します。
- ・情報内容は、緊急なもの（避難指示（緊急）、避難勧告など）や地域住民に身近なこと（地域内の状況など）を優先させます。
- ・災害時要援護者等については、日頃から連絡体制を構築しておく必要があります。
- ・情報を伝える手段として、メガホン、掲示板なども効果的に活用します。



☑してください

### 区・消防機関が必要とする情報

- 避難所開設の日時及び場所
- 収容人員、世帯数、傷病者数及び災害時要援護者数等
- 給食の要否、見込数及び最低限の生活物資及び医薬品等必要見込数
- 周囲の被害状況
- その他必要な事項
- ※ 上記の状況が変化した際には、適宜避難所の管理責任者は、区等に報告すること。



☑してください



## 初期消火班長用 アクションカード(作成例)

### 集合場所

- 集会所
- 公園

### 任 務

初期消火班を指揮し、消火器等の調達及び初期消火活動を実施する。

### 内 容

#### 1. 活動場所を確認してください。

- ・地域防災リーダーから活動場所の状況について確認してください。



#### 2. ○○集会所資機材倉庫より消火器○本、△△コミュニティ防災センターより消火器△本を調達するよう班員に指示し、調達後の集合場所を指示してください。

- ・必要に応じて消火バケツも調達してください。

○○集会所資機材倉庫 消火バケツ○個  
△△コミュニティ防災センター 消火バケツ△個



#### 3. 班員が集合したら、初期消火活動を行ってください。

- ・炎や煙に惑わされず、火元を掃くようにノズルを左右に振りながら、手前の火から完全に消して進みます。
- ・屋外では風の影響を考慮して風上から放射します。
- ・室内では自分自身の避難路を確保し、身体を低くし煙や熱気をさけ火元に近づいて放射します。
- ・粉末消火器を使用した場合は、燃烧物の中心まで完全に消えていないことがあるので、再燃させないためには、水を十分かけておくことが必要です。



#### 4. 消火器が足りない場合は、各家庭から集めることや、必要に応じて消火バケツによる消火活動(バケツリレー)を行ってください。

- ・消火バケツを使用するには、風呂の水を張るなど水源が必要となります。
- ・リレー方式で水をかけるか、一人ひとりが水を汲んでかけるかは、水そう等の位置と燃えている場所との距離によって判断する必要があります。



#### 5. 消防団が現場活動を行っている場合は、消防団員の指示に従い協力をしましょう。



#### 6. 定期的に現場の状況について、隊長や地域防災リーダーへ連絡を入れてください。



## 救出・救護班長用 アクションカード（作成例）

### 集合場所

- 〇〇集会所
- 〇〇公園

### 任 務

救出・救護班を指揮し、建物の倒壊、落下物等により救出・救護が必要となった者に対して救出・救護活動を実施する。

### 内 容

#### 1. 活動場所を確認してください。

- ・地域防災リーダーから活動場所の状況について確認してください。

☑してください

#### 2. 〇〇集会所資機材倉庫よりジャッキやバール、△△コミュニティ防災センターより担架やハンマーを調達するよう班員に指示し、調達後の集合場所を指示してください。自らは、現場の状況を確認しに行ってください。

- 〇〇集会所資機材倉庫 ジャッキ〇基、バール〇本、のこぎり〇本
- △△コミュニティ防災センター 担架〇式、10ポンドハンマー〇本、サイレン付メガホン〇個

☑してください

#### 3. 班員が集合したら、救出・救護活動を行ってください。周囲の安全を確認し、状況を見ながら自らの安全を確保して現場へ近づきます。

##### ○ 救出活動

- ・複数名で捜索・救助を実施し、1人は伝令役として活動します。
- ・電線、危険物、ガスなどには十分注意します。

##### ○ 救護活動

- ・負傷者がいたら、担架（毛布と棒を利用して担架をつくる）、椅子、徒手により負傷者を安全な場所へ搬送してください。
- ・出血していたら、出血部分を清潔で厚みがあるガーゼや布で、強く押さえてください。
- ・人が倒れていたら、倒れている場所が安全かどうか確認してから、容態の観察をしてください。

☑してください

#### 4. 救出・救護班のほか、状況に応じて周囲の人に声を掛け、応援を求めてください。また、必要と認められる場合には、速やかに消防機関等の出動を要請してください。

- ・被害者が挟まれている場合の状況を確認し、作業の妨げとなる部分をのこぎりやバールなどを使って取り除く。はりや柱は切断場所によっては崩れることがあるので十分注意してください。

☑してください

#### 5. 消防団が現場活動を行っている場合は、消防団員の指示に従い協力をしましょう。

☑してください

#### 6. 定期的に現場の状況について、隊長や地域防災リーダーへ連絡を入れてください。

☑してください

# 避難誘導班長用 アクションカード(作成例)

## 集合場所

- 〇〇集会所
- 〇〇公園

## 任 務

火災の延焼拡大等により、地域住民の人命に危険が生じ又は生じるおそれがあるときは、避難活動を実施する。

## 内 容

### 1. 避難指示等が出されている場合の対応

- ・市長等から避難勧告・指示が発令されている場合や、地域内の状況等から住民の生命・身体に危険が及ぶおそれがある場合は、隊長や地域防災リーダーと相談し、速やかに避難誘導活動の実施をしてください。
- ・原則として震災時(震度〇以上)には、いっとき避難場所に自動的に参集することとします。(津波からの避難を除く)



☑してください

### 2. 避難誘導

- ・地域のいっとき避難場所から必要に応じ住民を指定避難所に誘導してください。出発前に、人員の確認を行ってください。
- ・【〇〇通りを通過して、〇〇学校へ、〇〇通りが通行不能の場合は△△通りを通る。】
- ・津波からの避難を除き、避難する場合は、近くの公園、広場、空き地などの一時的に身の安全が確保できる場所(いっとき避難場所)に避難し、組織的に避難するように努めます。

**いっとき避難場所** 地震災害発生直後に、家屋倒壊の危険などから身を守るため、避難行動や安否確認するために避難する場所です。

**指 定 避 難 所** 避難広場と避難収容施設の両面の機能を有する避難所として、全市立小・中・高等学校を指定しています。【〇〇小学校、〇〇中学、〇〇高等学校】

**補 助 避 難 所** 指定避難所を補完する施設で、指定避難所に派遣される職員が巡回などを行い、市がアルファ米などの食料を備蓄しています。

**地 区 避 難 施 設** (がんばる避難施設) 地域の方々が自主運営し、自ら備蓄などの準備を行い、災害時に備える施設です。

**地 域 避 難 場 所** 指定避難所への避難が困難な地域の一時的な避難場所として、面積等一定の基準を満たす公園等を必要に応じて指定しています。【〇〇公園】

**広 域 避 難 場 所** 火災の延焼拡大等により、指定避難所等にとどまることが危険な場合の避難場所として、面積等一定の基準を満たす公園等を地域の状況等に応じて指定しています。【〇〇公園】



☑してください

### 3. 災害時要援護者の支援者を決めておき、寝たきりの人や身体の不自由な人の移動は、リヤカーや車いすなどを活用してください。



☑してください

### 4. 避難途中では、余震などによるブロック塀の倒壊や落下物に注意してください。



☑してください

### 5. 避難場所に到着したら、出発時の人員がそろっているか確認してください。



☑してください

### 6. 定期的に状況について、隊長や地域防災リーダーへ連絡を入れてください。



☑してください

## 給食・給水班長用 アクションカード（作成例）

### 集合場所

- 集会所
- 公園

### 任 務

給食・給水班を指揮し、避難場所等における給食・給水活動を実施する。

### 内 容

#### 1. 給食活動

- ・市から配布された食料や地域で備蓄している食料、家庭又は地域の商店等から提供を受けた食料等の配分、炊き出し等により給食活動を行ってください。
- ・風向きや周囲の状況に注意して炊き出し場所を選定し、釜、なべ、コンロあるいはガスボンベなどの炊き出し用品を活用して炊き出しを行います。  
○コミュニティ防災センター 炊飯装置セット△式
- ・自宅から避難する場合は、食料や水を持参するよう防災訓練等で周知しておきましょう。

☑してください

#### 2. 給水活動

- ・市から提供された飲料水や地域で備蓄している飲料水などにより給水活動を行ってください。
- ・飲料水のほか生活水の確保が必要となります。

☑してください

#### 3. 食料などの配布にあたっては、人員の把握を行い、全員に渡らないような場合は、災害時要援護者への配布を優先しましょう。

☑してください

#### 4. 婦人防火クラブが炊き出しを行っている場合は、婦人防火クラブ員と協力して活動してください。

☑してください

#### 5. 定期的に学校や避難所要員、自主防災組織の隊長等と情報共有を図ってください。

☑してください

避難所における食料・飲料水の備蓄状況（1箇所あたりの備蓄数量 令和〇〇年〇〇月末現在）

	市民センター コミュニティ・センター	市立小・中・高等学校
クラッカー類	70食	210食
アルファ米	300食	1,200食
アルファ粥	—	100食
飲料水 (500mlペットボトル)	400本	1,600本

※ 食料・飲料水の状況のみですので、他の資機材状況については、1-13～1-15ページを参照願います。

## 4-3 災害時要援護者（避難行動要支援者）の避難支援

### 基本的な考え方

#### (1) 仙台市災害時要援護者避難支援プランの目的

各地域においては、日頃から高齢者や障害者など支援を必要とする人を特定し、その一人ひとりについて、誰が支援してどこに避難させるかなど、具体的な支援方法を決めておくことが必要です。

このプランは、要援護者の「自助」及び、地域（近隣）の「共助」を基本とし、要援護者への情報伝達や避難支援体制の整備を図ることによって地域の安心・安全体制を強化することを目的としています。

#### (2) 避難支援体制（自助・共助・公助の役割分担）

災害時に、要援護者の安否確認や避難誘導等を円滑に行うためには要援護者自身による日頃の備えである「自助」、地域住民相互や地域に関係する団体の連携による「共助」が重要です。

これら、「自助」・「共助」に加え、市や公的機関による「公助」が一体となり協働で避難支援体制を構築するため、それぞれの役割分担を明らかにしておく必要があります。

#### 自らの備え（自助）

住宅の耐震化、家具の転倒防止、物資の備蓄、近隣の方々とのつながりの確保など

#### 地域での 取り組み（共助）

町内会・自治会、自主防災組織、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、地域包括支援センター、ボランティア団体等が連携し、協働で推進

#### 行政による支援（公助）

要援護者の避難支援体制を確立するため、地域における共助の取り組みが円滑に進むよう支援

## 災害時要援護者の定義と避難支援の対象者

### (1) 災害時要援護者の定義

災害時要援護者とは、災害が発生した場合、または発生しそうな場合に、必要な情報を迅速かつ的確に入手し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなど、災害時の一連の行動において第三者の支援を必要とする方々をいいます。

平常時から介護や行動の補助など何らかの支援が必要な方

高 齢 者

障 害 者

(身体障害・知的障害・精神障害・発達障害のある方など)

災害時などの緊急的な状況において手助けが必要となる可能性のある方

妊 産 婦

乳 幼 児 ・ 児 童

外 国 人

### (2) 避難支援の対象者

在宅の方で

災害情報の入手が困難な方 (※ 1)

自力や家族の支援だけでは避難することができない方

- ①障害者手帳をお持ちの方(身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳)
- ②要介護認定を受けている方(要支援も含む)
- ③65歳以上の高齢者で、一人暮らしの方や高齢者のみの世帯の方、またはご家族のお勤めなどにより、日中(夜間)の長い時間にわたり一人暮らしの状態になる方
- ④上記①～③に準じる方や、病気等により、地域による支援を必要としている方(※ 2)

地域による支援を希望する方

※ 1 視覚や聴覚の障害等により、情報の入手が難しい方を指します。

※ 2 難病や、自立支援医療の給付を受けている方なども含みます。

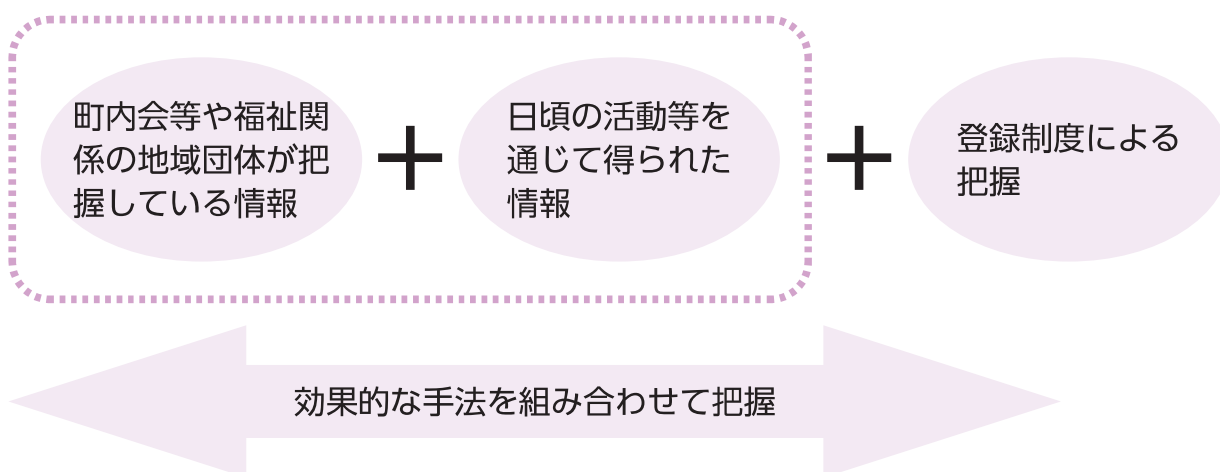
## 要援護者情報の把握と情報管理

### (1) 要援護者の把握

要援護者の安否の確認や避難誘導等を速やかに行うためには、要援護者にとって最も身近な地域の方々が、要援護者の居住地や生活状況等の情報を事前に把握しておくことが大切です。



町内会等の地域団体や、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会等の福祉関係者が、日頃の活動等を通じ、支援が必要な人へ働きかけを行うなど、効果的な手法を組み合わせるにより把握します。要援護者の情報を収集する際には、本人に対して、利用目的と共有範囲について説明し、同意を得る必要があります。



### (2) 地域の要援護者を把握する方法としては

- ① 町内会等で作成した「災害時要援護者名簿」を再確認する
- ② 災害時要援護者情報登録制度により把握する
- ③ 回覧等を用いたアンケートの実施等により把握する
- ④ 町内会等が日頃の活動等を通じて把握する

### (3) 情報の管理

要援護者が、安心して支援を申し出るためには、個人情報の流出防止の取り組みなど、情報の管理が重要です。

地域においては、個人情報の取り扱いに関するルールを定め、個人情報の保護に十分に配慮しながら、要援護者の情報を適切に管理します。



## 地域における避難支援体制の整備・推進

災害が発生し、またはそのおそれが高まったときに、要援護者の避難誘導等を迅速かつ的確に実施するためには、あらかじめ、避難支援体制を整備するとともに、要援護者一人ひとりについて、誰が支援し、どこに避難させるかなどの支援の方法を定めておくことが重要です。

避難支援体制の整備

支援者の確保

信頼関係の構築

避難支援に有効な情報の把握



### 【記載内容例】

- ・ 家族の緊急連絡先
  - ・ 支援者の氏名、連絡先
  - ・ 避難する際の場所
  - ・ かかりつけの医療機関
  - ・ 既往症
  - ・ 日頃服用しているお薬の品名、用量
  - ・ 避難の際に配慮してほしいこと
- ・・・など

## 避難誘導の方法

安否確認

要援護者や隣近所への声かけ

救護活動・救出活動

負傷者への応急手当、安全な場所への搬送等

避難誘導

地域の安全な場所や避難所への避難誘導

要援護者への情報伝達

必要な情報の伝達

救援の要請等

支援が困難、危険な場合  
(消防、警察、区役所等)



※ 地域で行われる防災訓練等において、安否確認、避難誘導など、要援護者の支援や役割分担等について確認しておきましょう。



## 4-4 DIG

### DIGについて学ぼう

#### (1) DIGとは

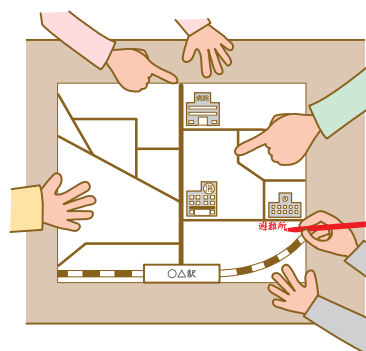
DIG(ディグ)は、参加者が地図を使って防災について考える訓練です。Disaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)の頭文字から命名されました。DIGという単語は「掘る」という意味であるとともに、「探求する」、「理解する」といった意味を持っています。

災害で起こりえる様々な実態などを地図の上にシートを被せ、シートに書き込み、地域の特性などを知り、ワイワイと楽しく話し合っゲーム感覚で災害時の活動や対応を考えることができます。

#### (2) DIGの効果

DIGを行うことで、地域に起こりえる災害の姿をより具体的にイメージでき、地域の問題点(強みや弱み)に気づくことができます。そして、DIGを通じて参加者のコミュニケーションが活性化し、地域コミュニティが盛んになるといった効果があります。

災害が発生した時には、地域の協力が欠かせないことから、DIGを行うことで地域の皆さんで協力できる体制づくりの第一歩となります。



Memo

A large dashed purple rectangular box intended for taking notes, with a purple pencil icon at the bottom right corner.

## DIGの基本的な取りくみ方

DIGの基本的なやり方は下記の通りです。

詳細については、各消防署予防課（宮城署は予防係）や各消防出張所にお問い合わせください。

4

自主防災組織の機能を高めるための活動

## 実施要領

### ① DIGの概要と準備（15分）

事前にグループ分けをして、テーブルを囲んで席につきます。道具類は事前に置いておきます。

地図は、グループの数だけ用意してください。1グループは8～10人程度がよいでしょう。

DIGとは何か？（説明） 5分

必要な道具（説明） 3分

・地図（地域が詳細にわかる地図）	・ベンジン、ティッシュペーパー
・透明シート（地図の上に敷きます）	・付箋紙（メモの書き出し）
・セロハンテープ	・丸型のカラーシール（地図上に表示します）
・油性ペン（地図の上に書き込みをします）	・模造紙（意見を整理して発表するために）

地図の準備 2分

複数の地図を貼り合わせて1枚の大きな地図を作り、台にセロハンテープで貼り付けます。

地図の上に透明シートをかぶせて、セロハンテープで固定します。

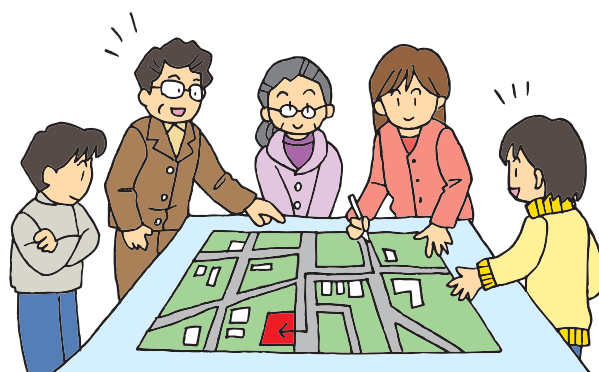
自己紹介 5分

DIGに入る前に、初対面の参加者もいることを考えて、グループのなかで自己紹介をします。

名前、年齢、好き・嫌いな食べ物、趣味など、何でも構いませんので、お互いに楽しく自己紹介をしてみてください。お互いによく知っている場合は省略しても構いません。

### ② 被害の想定（5分）

地震が起こる日時、震度、天候などの条件を決めます。



### ③ 自然やまちのことを知る (5分)

ペンなどを使って地図に塗り絵をしながら、まちの構造を理解します。ペンで塗る色は下表を参考にしてください。

黒色	鉄道	
茶色	大きな道路	
ピンク色	せまい道路 (消防車が入れないなど)	
青色	用水路、小さな河川、池、沼、プール	
緑色	広場、公園、建物が無い広い場所	
紫色	火災時に燃え広がりの防止になるような建物	
赤色	過去の災害発生箇所	など

### ④ まちを守る施設や人を守る施設の確認 (5分)

カラーシールを使い、防災や災害救援に関わる場所や施設、人材を確認します。シールを貼る場所は下表を参考にしてください。

緑色	官公庁 (役所、警察、消防)、医療機関、学校、公共施設など
青色	避難所、防災倉庫、食料・燃料販売店、重機のある事業所、水のある場所など
赤色	ブロック塀、看板、自動販売機、危険物貯蔵施設など
橙色	頼りになる人がいる場所
黄色	手助けが必要な人がいる家の場所

### ⑤ 起こりそうな被害の検討 (5分)

地域に起こりそうな被害を考えてもらい、赤色のペンで地図に書き込みます。また、付箋紙に被害の場所や状況を書いて貼ります。起こりそうな被害は、下表を参考にしてください。

通行止め	赤色のペンで×印をつけ、付箋紙に書いてあてはまる場所に貼る
がけ崩れ	赤色のペンで囲み斜線を入れ、付箋紙に書いてあてはまる場所に貼る
建物、橋の倒壊	赤色のペンで印をつけ、付箋紙に書いてあてはまる場所に貼る
火災 (延焼)	赤色のペンで囲み、付箋紙に書いてあてはまる場所に貼る
津波	赤色のペンで囲み、付箋紙に書いてあてはまる場所に貼る

### ⑥ 地域を災害に強くするために (自分たちが出来ること) (15分)

先ほど考えた被害の状況をもとにして、地域の中で自分たちはどのような活動を行うことが出来るか考えます。考えた結果は、付箋紙に書いておきましょう。最後に付箋紙の内容を整理して、模造紙にまとめてください。

### ⑦ 発表 (10分)

最後に、これまで考えた地域の長所と短所、自分たちが出来る活動について、グループごと発表します。

また、各グループで作成した地図を参加者全員で眺めて、どんな違いがあるかを確認し、地域の課題について共有できれば、さらに理解が深まります。

## DIGのバリエーション

DIGは、対象者を絞り込むことで、様々なバリエーションが考えられます。地域での防災活動では、色々なDIGのバリエーションを試してみると、防災活動に役立つ発見があるでしょう。

4

自主防災組織の機能を高めるための活動

### 【バリエーションの例】

- 小学生向け  
自分の身を守ることを知る（テーマ「災害時に近づいてはいけない場所を知ろう」）
- 中・高校生向け  
地域の人を助ける（テーマ「災害時に困る人が出そうな場所を見つけよう」）
- 初期消火班向け  
消火に必要な情報を知る（テーマ「地域にある消火器具の配置を知ろう」）
- 避難誘導班向け  
地域の避難ルートを知る（テーマ「災害時に通るのが危険な場所を知ろう」）
- 給食・給水班向け  
食料の備蓄を知る（テーマ「地域で食料を入手できる場所を知ろう」）



Memo

## 4-5 クロスロードゲーム

### クロスロードゲームについて学ぼう

#### (1) クロスロードゲームとは

「クロスロード」とは、英語で「岐路」「分かれ道」を意味しています。災害対応は、ジレンマを伴う重大な決断の連続です。現実には1995年の阪神・淡路大震災の際、神戸市職員が対応を迫られた難しい状況がたくさんありました。この貴重な体験を素材とし、クロスロードは作成されています。

クロスロードゲームは、防災に関する困難な意志決定状況を素材とすることによって、決定に必要な情報・前提条件についての理解を深めることができる「災害対応カードゲーム」です。

トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームで、参加者は、災害対応を自らの問題として活発に考え、かつ自分とは異なる意見・価値観の存在に気づくことができます。

#### (2) クロスロードゲームの効果

クロスロードの問題に正解はありません。したがって、座布団の多少によるゲームの勝負が大切なものではありません。むしろ、各問題に対して自分がなぜYESもしくはNOを選んだか、また他の人はどうしてYESもしくはNOを選んだのかを知り、いろいろな考え方があることを知ってもらうことが大切です。また、物事の捉え方により、いろいろな価値観があることもあわせて知ってもらえるように、議論をふくらませてあげることが大切です。



「クロスロード」および「CROSSROAD」は登録商標です。

「クロスロード」：商願番号2004-83439(第28類)、「CROSSROAD」：同2004-83440(第28類)

Memo

実施要領

① クロスロードの概要と準備

グループで話し合いのできる机と椅子が必要になります。グループ同士は、それぞれの話し合いの声が悪魔にならない程度に離して配置します。

事前にグループ分けをして、テーブルを囲んで席につきます。多数派・少数派を確認するため、奇数人数でグループをつくります。

1グループは5人または7人程度がよいでしょう。グループ数は会場の大きさと人数に応じて何グループでも実施可能です。

□ 必要な道具

・問題カード	・YESカード、NOカード
・座布団カード (青座布団)	・座布団カード (金座布団)
・クロスノート	・その他 (A4用紙、筆記用具)

□ 自己紹介

ゲームに入る前に、初対面の参加者もいることを考えて、グループのなかで自己紹介をします。

名前、年齢、好き・嫌いな食べ物、趣味など、何でも構いませんので、お互いに楽しく自己紹介をしてみてください。お互いによく知っている場合は省略しても構いません。

② ルールの説明 (10分)

ゲームのルールを説明します。

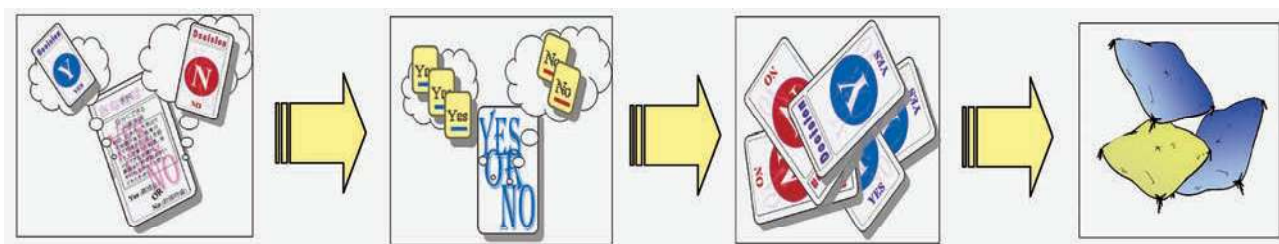
ゲームは問題カードとYESカード・NOカード各1枚ずつのカードを使って行います。プレイヤーは1人ずつ順番に問題カードを読み上げます。読み上げられたカードの内容について、プレイヤーはYESかNOかを選び、カードを出します。

1 YESかNOか  
どうしよう？

2 決断してY/Nカード  
を裏向けで

3 オープン！

4 多数派＝青座布団  
(1人意見＝金座布団)



### ③ ゲームの実施 (50分)

1. ジャンケンで最初の人を決めます。(順番は時計回り)
2. 順番がまわってきたら
  - ・問題カードを選ぶ → クエスチョンカードから読み上げるカードを1枚選びます。
  - ・問題カードを読む
3. 全員で意思決定
  - ・メンバーは全員で「多数派の意見」を予想します。
  - ・手持ちのYES・NOカードを選び、裏面を向けて自分の前に出します。
4. ゲームの判定
  - ・一斉にカードを表に返します。
  - ・座布団獲得  
基本：多数派の意見であった人は、青い座布団を一枚とります。  
(多数派 → 青座布団 少数派 → 座布団なし)  
例外：たとえ少数派でも、あなたの意見がただ一人だった場合は、金色の座布団を一枚とります。  
(唯一の意見 → 金座布団 その他多数派 → 座布団なし)
  - ・なぜ、そのカードを選んだか理由を簡潔に話します。
5. 読み上げられたカードは、もう使用しません。
6. 上記の手順をすべてのメンバーが順々に繰り返します。
7. 手持ちの座布団が最も多い人が勝ちとなります。

あなた担当の職員…
【神戸港】008】 被災から数時間。避難所には3000人が避難しているとの確かな情報が得られた。現時点で確保できた食料は2000食。以降の見通しは、今のところなし。 まず 2000食を配る？
Yes (配る) OR No (配らない)

### ④ 振り返り・まとめ (30分)

問題が終了した後、クロスノート (※) を使用し、各グループで結果発表をしてください。座布団の数を数え、誰が一番多かったか、誰が一番少なかったかを確認してください。そして、なぜそのような結果になったのかをみんなで議論してください。

また、金座布団を持っている人がいるかどうか、また、いる場合には、なぜ金座布団がとれたのかを各グループで話し合ってください。

※ クロスノートとは、YES・NOの問題点はどこにあるのか、また、問題を考えるためのヒントになる資料です。



## クロスロードゲームの応用

クエスチョンカードに書かれている問題は、地域でどう対応するかをあらかじめ決めておけば災害時に助かるものもあります。

最初にクロスロードゲームをやることで、どれほど様々な価値観があるのかを確認した上で、地域での対応方法を話し合い、自分の住んでいる地域の防災マニュアルにその地域のルールとして書き込んでいきましょう。

あなたは・・・  
市民

大きな地震のため、避難所に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼い犬がいる。一緒に避難所に連れて行く？

クロスロードゲームを実施し、様々な意見があることや、それぞれの考え方を知る

自分の住んでいる地域ではどのように対応するかを話し合って決め、自分の住んでいる地域の防災マニュアルに書き込む  
(「うちの避難所では、ペット専用の部屋を作ろう」など)

## クロスノート(例)

あなたは...  
食料担当の職員

被災から数時間。避難所には3,000人が避難しているとの確かな情報が得られた。現時点で確保できた食料は2,000食。以降の見通しは、今のところなし。まず2,000食を配る？

### YESの理由(又は問題点)

- ! 食料が悪くなって廃棄しては元も子もない
- ! 1食を複数人に分けて配る
- ! 子供やお年寄りなど、優先順位をつけて配る

⋮

### NOの理由(又は問題点)

- ! もらえない人に不公平感が生まれ、以降の避難所運営に支障がでる
- ! 避難者全員に配布できる量が揃うまで待って配った方がいい
- ! 被災から数時間であれば、まだ急いで配る段階ではないと思う

⋮

メモ



## 4-6 その他の防災ゲームの紹介

D I Gやクロスロードの他にも様々な防災ゲームがあります。地域の活動に、このような参加型の防災ゲームを組み込むことで、楽しく防災活動ができるようになりますし、地域コミュニケーションの活性化につながります。

### HUGについて学ぼう

HUGとは、大地震発生時の避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして開発されたもので、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーはこのゲームを通して、災害時要援護者等への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

HUGは、H (hinanzyo 避難所)、U (unei 運営)、G (game ゲーム) の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味で、避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられています。

【静岡県が開発した防災ゲームです。】

Memo



## HUGの基本的な取りくみ方

### 実施要領

#### ① HUGの概要と準備

会議机3脚程度の広さで1グループ分のスペースを作り、7人程度のグループを何組か作って行います。グループのうち1人がカードの読み上げ係、残りの人がプレイヤーとなります。

##### □ 必要な道具

・避難者カード	・イベントカード
・条件カード	・避難所の図面
・感想カード	・その他(筆記用具等)

##### □ 自己紹介

HUGに入る前に、初対面の参加者もいることを考えて、グループのなかで自己紹介をします。

名前、年齢、好き・嫌いな食べ物、趣味など、何でも構いませんので、お互いに楽しく自己紹介をしてみてください。お互いによく知っている場合は省略しても構いません。

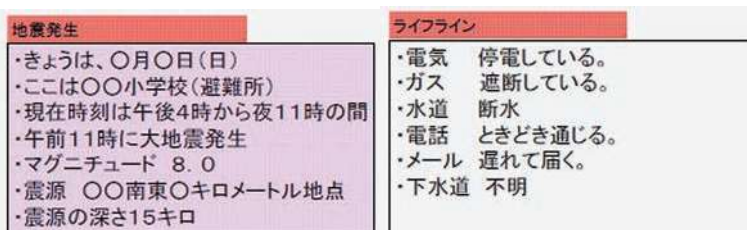
#### ② ゲームの実施 (50分)

1. カード読み上げ係は、条件カードを読み上げて、災害の大きさや、ライフラインの状況等を確認します。
2. グループで話し合いながら、避難者カードを避難所に配置します(避難者の居場所を決める)。
3. カード読み上げ係は、イベントカードを読み上げる。カードにしたがって対応をグループで考えます。

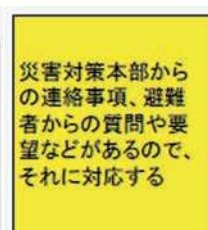
(避難者カード)



(条件カード)



(イベントカード)



#### ③ ふりかえり (20分)

感想カードに各自ゲームの感想や意見、疑問に思ったこと等を記入し、他のグループと意見交換します。

## 仙台発そなえゲームについて学ぼう

「仙台発そなえゲーム」は、参加者一人一人が架空の住民になって「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か」について考えながら実践的に防災・減災を学ぶことができる体験型のボードゲームです。

このゲームの特徴は参加者が架空の住民10代～80代の男女のいずれかになり切り、その立場で災害への備えを考えることにあります。それは地域社会に住んでいる様々な世代の住民に気づき、思いを巡らすことにつながります。

## 仙台発そなえゲームの基本的な取りくみ方

### 実施要領

#### ① 仙台発そなえゲームの概要と準備

1グループあたり6～8名のグループで座り、それぞれのグループでゲームを行います。それぞれが架空の住民になって自己紹介を行います。



#### ② ゲームの実施

1. 青カード（あったらいいなと思うもの）を架空のまちを描いたマップの中の自宅や施設、地域に置いていきます。
2. 緑カード（地域にあったらいいなと思う事柄）や、黄色カード（自分でできたらいいなと思う活動）を住民の立場で2枚選び、地図上に置いていきます。
3. スクリーンに映し出された東日本大震災の課題についてグループで話し合います。話し合われた結果を発表し、みんなで共有し合います。

携帯ラジオ  
(1台)

町内の班会議

町内清掃参加  
(草刈・ドブ清掃等)

【仙台発そなえゲームに関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 FOR YOU にこにこの家 TEL 022-241-0858】

**SSG** 仙台発そなえゲーム  
SENDAI SONAE GAME



## その他の防災ゲームの紹介

HUG以外にも、ゲーム感覚で防災について考え、学べるゲームがあります。

### ぼうさいダック

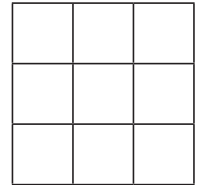
幼児から小学校低学年の児童向けの防災教育用カードゲームで、子どもたちが、実際に身体を動かし、声を出して遊びながら、防災や日常の危険から身を守ることや、あいさつやマナーといった日常の習慣について学びます。

【ぼうさいダックに関するお問合せ先：一般社団法人 日本損害保険協会 TEL 03-3255-1294】

### 防災グッズビンゴ

ビンゴゲーム形式で、非常持ち出し品について考えます。主に小中学生向けですが、大人も楽しめます。

- ① 非常用持ち出し袋に入れるものを9個、各マスにひとつずつ書いてください。
  - ② 縦横斜め、どちらでも1列揃ったら、リーチと大きな声で叫んでください。
  - ③ 縦横斜め、どちらでも、2列揃ったら、ビンゴと大きな声で叫びながら、手を挙げてください。
- ※ 非常用持ち出し袋に入れるべきものは、個人個人の状況によって異なりますので、一般的に入れるとよいもの、乳幼児のいる親が入れるとよいもの、高齢者が入れるとよいものなど、ある程度限定して出題すると、ゲームの難易度を上げることができます。



### 防災ゲームに関する情報

防災ゲームに関する様々な情報は、インターネットでも探すことができます。特に下記のサイトには、様々な防災ゲームやイベントが、実施事例とともに紹介されています。

また、これ以外の情報もインターネットや他の地域防災リーダーとの情報交換等で集めてみましょう。

『防災教育チャレンジプラン』  
<http://www.bosai-study.net/>



『WEB クロスロード新聞』  
<https://maechan.net/crossroad/shinbun.html>



『日本損害保険協会』  
<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/bousai-duck/index.html>



## KIT ゲーム

KITとは、Katudou（活動）、Image（イメージ）、Training（トレーニング）の頭文字から命名されました。

避難所の活動班の活動をイメージすることを目的としています。

### (1) KIT ゲーム 1 (60～90分)

#### (避難所立ち上げをイメージする研修)

避難所を開設する場面を想定したゲームです。災害の種類、状況、時刻などによって活動内容は変わります。限られた時間に何ができるかを考え、話し合う中で、運営委員や地域の一人としての立ち上げ活動がイメージできます。

発災後、体育館にかけつけた町内会役員・指定動員・担当課職員は、避難者収容のためにどんな準備をするのか。

- ① 避難者収容前に3つの設定された場面により行う必要がある活動を25枚のカードから選びます。
- ② 個人の考えを出し合い、班としてのカードを決めます。
- ③ 選択した基準・考え方とカード番号を各グループが発表します。

### (2) KIT ゲーム 2 (60～90分)

#### (避難所運営活動班をイメージする研修)

避難所には衛生班、名簿班、食料物資班など6～8の活動班があります。それぞれの活動班がどんな活動をし、連携するかを明確にします。避難所で次々に起きる様々な出来事にすばやく対応する訓練です。

避難者を収容後、避難所で起きた出来事に各活動班はどう対応するのか。

- ① まずは、仙台市で示した避難所運営委員会と活動班の説明をします。
- ② 避難所の状況の想定、課題と対応方針を示します。
- ③ 活動班カードを引き、自分の班の札を首から下げます。
- ④ 各活動班で行う活動を対応方針に従って付箋紙に考えられるだけ書き、模造紙に貼り付けます。
- ⑤ 選んだ活動班の課題カードと対応策カードを読み、自分が書いたポストイットカードと課題カードのマッチングを行います。
- ⑥ 対応方針に沿うようにカードを並べなおして、空間的視点と時間的視点で各班の対応について考えます。
- ⑦ その後も課題を数問示し、同じようにそれぞれの課題について対応策を検討していきます。

【KIT ゲームに関するお問合せ先：NPO 法人 SONAE 防災研究所 TEL 022-394-7361】



## 大雨防災ワークショップ

「経験したことのない大雨 その時どうする？」

### 【概要】



解説者と参加者が近い距離で、質問を交えながら進めるわかり易い解説



少人数のグループに分かれ、様々な意見をまとめて対応を考えるグループワーク

## 住民が防災について考えるための「気づき」「きっかけ」

仙台管区气象台では、これまで气象台のホームページや講演会等を通じて、住民等における防災・安全知識の普及啓発に取り組んできました。更に防災意識を高め、実際の災害時における住民自らの安全行動につなげていただくため、日頃からの備えや適時適切な防災気象情報や避難情報の入手とその情報を活用した安全行動を能動的に学習する『大雨防災ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」』を作成し、普及拡大に取り組んでいます。ワークショップの参加者からは情報の活用方法が理解できたなど好評をいただいています。

大雨防災ワークショップは小学校高学年以上を対象としており、学校や町内会でも開催することができますので、興味のある方は气象台までお問合せください。また、气象台ホームページでも概要を紹介しておりますので、そちらもご覧ください。

お問い合わせ先：仙台管区气象台総務部業務課広報係  
022-297-8102